

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成 28 年 7 月分）

【景況感】

景気回復に足踏み感が見られる。

【製造業】生産、受注は概ね横ばいの状況が続いている

○製造業全体では、輸送用機械は工場の爆発事故や熊本地震による減産分の挽回生産が見られ増加したが、はん用・生産用・電気機械や金属製品の生産は弱含んでおり、全体では概ね横ばいで推移している。

【地場産業】依然として厳しい状況が続いている

○地場産業は、直近の円高による原材料費の低減は追い風であるものの、依然として消費マインドの減退や海外製品との競合など厳しい状況が続いている。

【個人消費】消費の回復状況は鈍く弱含んでいる

○個人消費は、売上が前年を上回る業種も見受けられが、前年比増減率は鈍化傾向にある。また、実質賃金の増加が期待できないことから節約志向が続き、消費の回復状況は鈍く弱含んでいる。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに減少

○観光では、前年同月の大規模イベントの反動により観光入込客は増加となった一方、インバウンドの増加により、宿泊客数は増加となった。

【雇用】雇用情勢は回復基調にある

○雇用面では、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、全国と比べても良好な数値であり、総じて県内の雇用情勢は回復基調にある。一方、一部の業種では人手不足に陥っており、求職と求人のマッチングが今後の課題である。

【設備投資】投資実績は上向くも、投資意欲は減少

○設備投資の実施は、年初から上昇しているが、設備投資意欲は、昨年年央から減少が続いている。設備投資の目的は、依然として工場・機械等の「補修・更新」がメインとなるが、「生産能力拡大・売上増」もわずかながら増加傾向にある。

【資金繰り】資金繰りは改善傾向

○企業の資金繰りは、改善傾向にある。新規融資実績は落ち着きを見せており、借入難易度も緩やかながら着実に改善している。